



結の橋学園 開校式



オープニングセレモニー

令和元年5月26日(日)、宮古島市初の小中一貫校「結の橋学園」伊良部島小学校、伊良部島中学校の開校式が開催されました。

開校式は、はじめにオープニングセレモニーとして、新しい制服を身に着けた伊良部島中学校7年生による校歌斉唱、テープカットが行われました。「5・4・3・2・1」のカウントダウンに合わせてテープカットするとともに、結の橋学園の飛躍・飛翔の期待を込め、数十羽の鳩が上空を優雅に舞いました。

また、英語教育に力を注ぐ結の橋学園らしく、セレモニーの進行は英語を織り交ぜて演出され、開校にふさわしい華やかなムードに包まれました。



開校式

オープニングセレモニー後は、体育館に移動して開校式です。

結の橋学園の児童・生徒・職員、ご来賓の方々、保護者や地域・一般の方々を招いての開校式は、バスケットボールコート3面を設置できる広く真新しい体育館いっぱいに参加者が溢れ、清新な雰囲気の中進行しました。

式では、主催者を代表して市長・教育長・学校長のあいさつ、祝辞を宮古島市議会議員・県教育庁宮古教育事務所長・PTCA会長より述べられました。

児童生徒代表あいさつでは、9年生の佐久川莉奈さんが「決意のことば」(※次項に掲載)を堂々と発表し、会場いっぱいに大きな拍手が湧き上がりました。

また、式では校章の原画を制作した佐久川理緒奈さんの紹介と、校歌の作詞者 高橋尚子さん、作曲者 宮国貴子さんへ、宮国教育長より感謝状の贈呈も行われました。

結の橋学園伊良部島小学校、伊良部島中学校のご発展を改めてお祈りします！

最後に、オープニングセレモニー・開校式において協力して頂きました結の橋学園JTE狩俣聖子様、放鳩に協力していただいた與儀様、浜川様、その他尽力された関係者の皆様に紙面上を借りて感謝致します！

伊良部島小中一貫校は今年4月に開校。伊良部小学校、佐良浜小学校、伊良部中学校、佐良浜中学校の4校が統合しました。



「児童生徒代表あいさつ」

風薫る五月、結の橋学園の開校が迎えられましたことを、とても嬉しく思います。

結の橋学園が開校し、私たちの学び舎では、笑顔が絶えずとても楽しい雰囲気になっています。休み時間になると、プレイ広場で、小学生と中学生が一緒になって遊ぶ姿、学校行事や集会の時には、中学生が小学生のサポートをする姿、小中一貫校ならではの光景を日々、目にしています。

また、結の橋学園の生徒会では、伊良部地区四校の児童会・生徒会が一つになり、それぞれの学校で築き上げてきた伝統と誇りを持って、共に活動しています。今後、結の橋学園が発展するためには、自慢できる所はさらに伸ばしていき、何事にも挑戦し続ける学校づくりを目指していこうと思っています。まず、結の橋学園の自慢できる所は、「あいさつ」と「聞く態度」だと思います。朝登校すると、正門の前では、毎朝校長先生や地域の方々があいさつ運動をしています。児童・生徒が自分から立ち止まりあいさつをしている姿は、後輩の見本になると思いますし、とても素晴らしいと思います。そして、学校集会や校長先生のお話があったときには、話をしている人の方向を向き、静かに聞くことが出来ています。この二つの事を今後も続けていきたいと思っています。

今年の生徒会本部のスローガンは、「七転八起」です。このスローガンには、何度失敗しても挫けず、立ち上がって努力するという意味が込められています。それに伴い、私は、何事にも挑戦し続ける結の橋学園にしたいです。失敗を恐れず、まずは挑戦してみる事が大事です。一年生から九年生までの全校児童・生徒で四校の歴史・伝統を引き継ぎ、地域から愛される結の橋学園をみんなで創り上げていきたいと思います。

開校記念式典にあたり、結の橋学園のますますの発展のため、児童・生徒一人ひとりが日々努力を積み重ねていくことを誓い、代表あいさつとさせていただきます。

令和元年五月二六日

生徒代表 佐久川 莉奈



～結の橋学園 施設紹介～



保健室



正面玄関



音楽室



図書室



調理室

*今回、パニパニスクールは休みます。

連載

文化財を巡る

No.38



「七原集落跡と海軍飛行場」



昭和一八年から二〇年にかけて、宮古島市内には三つの飛行場が造られました。現在の宮古空港の場所位置する海軍飛行場、下地の皆愛一帯に位置する陸軍西飛行場、上野千代田から野原の一帯に位置する陸軍中飛行場です。これらの飛行場の建設にあたっては、多くの老幼男女が作業にかり出されたほか、集落が移動を余儀なくされ、畑地においても作物を収穫するまもなく接収されています。

現在の宮古空港の一帯に建設された海軍飛行場は、昭和十八年九月ごろから土地の接収が開始されます。接収にあたっては、土地所有者二五五人、およそ五二万五八二坪が接収され、一四〇〇m、一三〇〇m、一三〇〇mの二本の滑走路が設けられ、延べ六ヶ所におよぶ誘導路と三二の掩体壕も造られています。

この海軍飛行場の建設にあたり、七原、屋原、クイズの三集落が、鏡原や富名腰、袖山などに移動を余儀なくされています。宮古空港一帯には、現在でもこの集落跡を示す文化財が僅かながら残されています。

宮古空港の入り口の北側には、鬱蒼とした木々の茂った場所があります。ここは、かつて七原集落の人々が

祭祀を行った午の端里の御嶽が残されています。御嶽の入り口には説明版が設けられており、かつての集落の家屋の配置図なども記されています。

次に空港の外周道路にそって進んでいくと、左手の方に円形に柵で囲まれた範囲をみる事ができます。この柵の中は、くぼんだ土地になっており、その中には巨石が一つあります。この巨石は、七原集落の根石として地元の人々から崇拝され、霊石とされました。七原集落は、一八世紀初頭に久松集落の人々によって村立てされたとき、当時はこの石を中心にして集落が形成されたといわれています。

最後に、七原集落の人々が使用した井戸も残されています。井戸は、シレーダー通り(県道一九〇号線)を空港へむけて左折する、その角地に位置しています。普段は木々がまいておいており、かんたんに中に入ることはできませんが、円形に石積で囲いをされた壮麗な井戸が現在でも残されています。

今回紹介した三つの文化財は、空港を利用する際に気になっている方も大変多い場所ではないかと思えます。移動を余儀なくされた集落の中

には、マラリアによって甚大な被害を受けた集落もあります。これらの文化財は、直接的な戦争遺跡というわけではありませんが、宮古島における戦争を語る上で、非常に重要な文化財であるといえます。



七原集落の霊石

劇団 かなやらび

子どもたちの個性を伸ばし、自己表現し社会で活躍できる人材の育成を図ることを目的とし、平成24年4月宮古島市子ども劇団が設立されました。宮古島在住の小学4年生～高校3年生までが在籍し、設立から4ヶ月後には立ち上げ公演「ゆうたつちよの中学生日記」を上演し、オリジナル脚本「はしり星にのって」は、平成26年8月に東京公演を実現！団員の子どもの推し量れない可能性と感動を東京という地で観客と共に体感できたことは、子どもたちのかけがえのない心の糧になったと思います。

- 平成27年4月に、宮古島市子ども劇団から名称を変更し【劇団かなやらび】としてスタートしました。
- 平成28年8月
マークファンタジー第一弾「碧の涙雨」
- 平成29年8月
マークファンタジー第二弾「クスムドゥムタ 心の蕾」
- 平成30年8月
マークファンタジー第三弾「眠りの島」を上演し喝采を浴びました。

そして今年、令和元年8月10日・11日マティダ市民劇場にて【劇団かなやらび】五周年を記念しまして大盛況に終わったマークファンタジー第一弾「碧の涙雨」を再度！！アレンジを加え新たに、『碧の涙雨【再】』を上演することとなりました！！団員は今現在、稽古に邁進中。
宮古島に散らばる数々の伝説をひろい集め、宮古の歴史を交えた創作オリジナル物語、『マークファンタジー』と題され、これまで発表した作品は三作にのぼる。その第一作目であり原点とも言える本作の再演を望む声を多数頂き、劇団かなやらび五周年の記念公演として満を持しての再演が決定！人魚伝説、キジムナー、人頭税、珊瑚の死滅、マークファンタジーのエッセンスが複雑に絡み合い物語は進む。オーディションを突破した新しい仲間と共に、劇団かなやらびが送るこの夏最高に熱い冒険スベクタクル！「碧の涙雨」をご覧になったあなたも！まだ見ていないというあなたも！劇団かなやらびの世界観に魅了されること間違いなし！！劇場でお待ちしております。

8月10日(土)・11日(日)
マークファンタジー第四弾「碧の涙雨【再】」
マティダ市民劇場にて上演します！ぜひご来場ください！



公演日時
8月10日(土)14:00開演/18:00開演
8月11日(日)15:00開演
チケット料金
前売り 800円/当日 1,000円
(未就学児無料・座席使用の場合要チケット)
チケット販売場所
TSUTAYA/ファミリーマート(宮古島内各店舗)/
BOOKきょうはん宮古南店/こめ米屋
お問い合わせ先: kanayarabi@gmail.com